

よしの ふるさとマップ



【吉野小学校付近に設置】
平成19年(2007)3月
吉野地区自治振興会
「よしの ふるさとマップ」
を元に作成

各番号の所在地に、ふるさとマップ説明看板が設置されています。

5 愛宕神社と火祭行事

愛宕神社のご祭神は火産霊神(ほむすびのかみ)で、火難鎮護の神です。北西方面から越前府中の町を火難から守る神として府中城主本多富正公からも崇敬の念を寄せられていました。

古くは、鵜甘陣神社の攝社として鎮座されていましたが、天正年間に本多伊豆守の帰依により山頂に社殿を建立し鳥居一門と石灯籠一対を寄進されました。

明治4年鵜甘陣神社に下山合祀されましたが、戦後町内有志によって山頂に社殿が復元されました。

毎年7月24日が愛宕神社の祭礼であり23日の宵宮には松明が奉進され、ご神体を地元の42歳の厄男によってお移しをします。陽が沈む頃、西方の経が嶽の麓にある鵜甘陣神社を出発したご神体が愛宕山登山口まで来られると、待っていた老若男女は用意された松明に火を燈し頂上目指して登りはじめ「進上、進上、火進上、愛宕山に火進上」と唱えながら登って行き頂上に設けられた大かがり火の中に松明を投げながら、家内安全と片屋町の発展を願う伝統行事です。



【愛宕山】

25 本保陣屋跡

徳川幕府は幕藩体制を維持するため全国の枢要な地に直轄の領地を設けて陣屋を置き各藩の動静を監視するとともに領民を特別に保護して幕府の権威を示し諸侯統御の戦略とし、これらの地を天領と称しました。

本保陣屋はその一つであり享保6年(1721年)から慶応4年(1868年)にいたる約150年間越前の幕府領支配の中心として存在しました。東西南北それぞれ約40間1600余坪(約5300㎡)の敷地に塙を巡らし長屋御門本保御用場を始め米倉付属建物など建坪延200余坪の建造物が建ち並び現高山陣屋に匹敵する全国有数の陣屋であったといわれます。(後略)



平成12年10月(二千年記念)本保陣屋整備推進協議会の碑文から抜粋してご紹介しました。本保陣屋跡内(駐車場有)



11 田の神

稲を守り稲作の豊穰をもたらす神として、「田の神さま」が全国的に祭られていましたが、その風習はすたれ、最近では珍しくなっていました。

田の神さまの祭りは、12月5日です。余田町では北出、中出、南出各垣内ごとに「アイノコト」という「田の神」に感謝する祭が行われてきました。現在も北出、中出には石の祠が、南出には木造の祠があり、それぞれ垣内の人たちによって、祭られています。



26 天保救荒碑

江戸時代の天保7年(1836年)に越前一带も大凶作となり、多くの人が餓死する大飢饉となりました。その惨状は、想像を絶するものでした。

当時、飛騨高山から本保陣屋に出張られていた大井帯刀永昌郡代は、その惨状に対処すべく陣屋に半年あまり滞在して、年貢を減免し、高山の困窮を換金し領民に分け、私財も分け与えたりして、一身も省みずその救済に尽力されました。その遺徳を後世に伝えるため各村長が相談し、この碑が翌天保8年にこの地に建立されました。碑に向かい拝礼すると高山に向かうように建てられています。(後略)

